

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【辻南小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項と書くことについては、全体的に市の平均を下回っており、漢字の書き取り、主語と述語、仕組みや性質の理解に自分の思いや考えを適切に表現する能力に課題がある。算数では、図形や変化と関係について大きく市の平均を下回っているため、データの活用は得意な反面、各種の性質を理解しながら学習を進めていく必要がある。改善策として、引き続き「スタディサプリ」「ドリルパーク」等の学習支援アプリの活用、「じ・し・く」の視点を取り入れた授業改善、学年ごとに系統立てた「家庭学習の手引き」の活用、教科担任制による専門性の高い授業を展開(高学年)していく。低学年・中学年については、教員のアプローチとしてスタディログによる学習相談やドリルパークなどを活用できるような学習環境を整える。
思考・判断・表現	国語・算数共に、思考・判断・表現には課題が見られる。国語では説明的な文章の構成や内容を適切に捉える力、自分の思いや考えを適切に表現する能力に課題があると考えられる。改善策として、児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルとした学校課題研修の充実、児童一人ひとりの思考の可視化・共有化を目指し、ICT機器を効果的に活用する。また、教科横断的な反復学習などにも取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	教科についての関心が高い傾向にあり、ICTも授業の中で活用している学年が多いことから、引き続き、学校課題研修で取り組んでいる「個別最適な学び」「学びの自律化」「探究化」を意識した授業実践、学習計画を自分で立てて実践する「マイプラン」を活用した自主学習の励行(高学年)を目指していく。低学年・中学年についても引き続き、児童が興味・関心のもてる授業の導入や活動の見通しがもてる単元計画表、振り返りカードの作成等を継続していく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	国語・社会・算数・理科の自校テストにおける知識・技能の項目を85%以上にする。 R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の国語・算数の平均正答率を、前回の値より5pt向上させた値にする。社会・理科は市平均を上回る。	⇒ 「スタディサプリ」「ドリルパーク」等の学習支援アプリの活用、自校作成のワークシートを活用した朝学習の実施、学年ごとに系統立てた「家庭学習の手引き」の活用、教科担任制による専門性の高い授業展開を行う。(高学年)低・中学年については、スタディログによる学習相談や到達度別の朝学習プリントなどが活用できるような学習環境を整える。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考力・判断力・表現力等」の値を、全国平均より5pt向上させた値にする。社会・理科は市平均を上回る。	⇒ 児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルとした学校課題研修の充実、児童一人ひとりの思考の可視化・共有化を目指したICT機器を効果的に活用する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」の実践、学習計画を自分で立てて実践する「マイプラン」を活用した自主学習の励行(高学年)。低・中学年については、児童が興味・関心のもてる授業の導入を工夫する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語・社会・算数・理科の自校テストにおける知識・技能の項目は概ね80%以上となった。R5年度さいたま市学習状況調査の平均正答率は、前回の値より国語は5pt、算数は、2pt向上とはいかなかった。社会は6年で、市平均を3%強上回ることができた。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・算数の「思考力・判断力・表現力等」の値を、国語は3・5年生の値は概ねよいが、他学年は平均より5pt向上とはいかなかった。算数は6年以外は5ptまでとはいかないが、比較的よい結果であった。5年社会と6年理科は市平均を上回ることができた。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問項目において、肯定的な回答の割合として、6年は90%以上を超えることができたが、5年は90%弱であった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査、国語では、話すこと聞くことがR4年度に比べて大きく伸びている。漢字を文の中で正しく使うことや、日常よく使われる敬語についての理解はよい。一方、情報の扱い方では、書くことに課題がある。教科横断的に授業で目的に沿って情報の扱い方を学ぶ場面を設定し、その情報を基に書く力をつける必要がある。算数では、二次元の表から条件に合う数を読み取ること、台形の意味や性質についての理解はよい結果である。しかし、加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする問題を苦手としていた。また、算数は無解答率が高いことも読み取れる。スタディサプリ、ドリルパークの活用を継続しながら漢字や計算に関する事項の習熟を図っていく。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査、国語では、インタビューの様子から話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの本質を捉えることはよい結果である。その半面、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることや、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが全国平均から見ても弱い。算数では、二つの数量関係についての説明で、適切な数の組を用いることができていた。しかし、示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見だした違いを言葉と数を用いて記述することに課題が見られた。国語・算数共に資料から適切な情報を読み取ることや、比較分析する力に課題がある。引き続き、「さいたま市『アクティブラーニング』型授業を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルとした学校課題研修を充実させ、取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問項目において、肯定的な回答は、約88%とよい結果ではあるが、目標の90%には届いていない。しかし、自分だけでなく他者に目を向け、主体的・対話的な学び、協働的な学習形態を好み、積極的に行った成果である。算数の勉強が好きと答えている児童も全国的に見てもよい結果である。家庭学習の時間や授業以外での勉強へのタブレット活用の利用時間も、1時間以上の値で見ると県や全国を10ポイントほど上回っている。引き続き物事や課題に対して、主体的に取り組めるよう授業の工夫や児童への励ましを行っていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語は、市の平均よりやや下がっているが、領域で見ると、話すこと・聞くことや読むことは市の平均より高い。分の中の主語と述語の関係や語句の役割を理解することを苦手としている。算数は、市の平均よりも高く、領域で見ると、数と計算が高く、数直線上の大きさの他、円についての理解が高い傾向にある。生活習慣に関する調査からは、国語・算数の勉強が好きと答えている肯定的な回答は少な目であった。	小4	国語は、市の平均をやや上回り、特に我が国の言語文化に関する項目の他、漢字を文中で正しく使うことはよい結果であった。算数は、市の平均をやや下回っているが、2つのグラフの変化の様子を読み取ることについては高く評価できる。生活習慣に関する調査を見ても、ICT機器を勉強のために使っている児童が多いことや、授業で学んだことを他の学習でも生かしているということが分かった。
小5	国語・算数・社会・理科の4教科は、市の平均よりやや下がっている。しかし、国語の作者の心情や情景を捉えること、算数の四則混合計算の式を表すこと、社会の食料生産者の工夫や努力について考えること、理科の空気や動物に関する理解は高かった。生活習慣に関する調査では、基本的な生活週間は他学年よりも整っている傾向が見られる。また地域への関心が高いことも分かった。	小6	社会は、市の平均を上回っているが、国語・算数・理科は市の平均より下がっていた。国語は、辞書を利用して調べる内容は正答率が高いが、文の中の主語と述語の関係を理解することは苦手であった。算数は、事象についてよく理解している。社会の資料の読み取りや政治のしくみ、理科の生物については良い結果であった。生活習慣に関する調査では、家で自分で計画を立てて勉強しているという肯定的な回答や、ICTの活用、学級会での話し合い活動など、高く評価される。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	国語・社会・算数・理科の自校テストにおける知識・技能の項目を80%以上にする。 R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の平均正答率を、前回の値より国語は5pt、算数は2pt向上させた値にする。社会・理科は市平均を上回る。	⇒ 学習アプリの活用や学習環境の整備に引き続き取り組むとともに、無解答率を削減できるよう、授業や自校テスト等でも学びの足跡を残すようにしていく。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 深い学びに着目した授業改善を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルとした学校課題研修の充実、児童一人ひとりの思考の可視化・共有化を目指したICT機器を効果的に活用し、情報の扱い方として教科横断的な視点を取り入れ授業で活用する。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 深い学びに着目した授業改善の実践を行い、学校課題研修として教員がお互いにICTを効果的に活用した授業を見合い、共有することで授業力を高め、児童の興味・関心を引き出していく。

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【辻南小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」、算数では、「図形」と「変化と関係」の領域の正答率が低い。 <指導上の課題> 児童が反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」などの学習支援アプリの活用と、「じ・し・ゃ・く」の視点を取り入れた授業改善を行う。また、学年ごとに系統立てた「自主学習の手引き」を活用し学習環境を整える。その際、児童の学習履歴を「マイプラン」で確認し、個別に学習計画を立てる時間を設定する【週に1度の計画立案と毎日の実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>国語・算数共に、思考・判断・表現に課題が見られる。国語では、説明的な文章の構成や内容を適切にとらえる力、自分の思いや考えを適切に表現する能力に課題がある。 <指導上の課題>児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 児童主体の「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」を実践するための「仮説・実践・検証」をサイクルとした学校課題研修の充実、児童一人ひとりの思考の可視化・共有化を目指し、ICT機器を効果的に活用する。また、教科横断的な反復学習などにも取り組んでいく。【学期1回】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		①児童生徒による振り返り ②調査問題の解説 ③振り返りの終了報告
思考・判断・表現		結果提供(7月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能			
思考・判断・表現			

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)